

今月のトピックス

今期は、非常に早く、盛夏の時期に、インフルエンザの流行期に入りました。  
 新型インフルエンザのクラスター(集団発生)報告が、保育園、小学生、中高校、大学校等、学童・保育所、部活動や合宿を中心に見られています。  
 HBVによる急性肝炎の家族内発生が見られました。比較的日本に少ない genotype A e によるものでした。今後 genotype の違いによる臨床像の、更なる調査研究が必要です。  
 咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症は減少傾向です。  
 病原体定点からの手足口病では、全てエンテロウイルス 71 が検出されています。

平成 21 年 7 月 20 日から平成 21 年 8 月 23 日まで(第 30 週から第 34 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 7 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

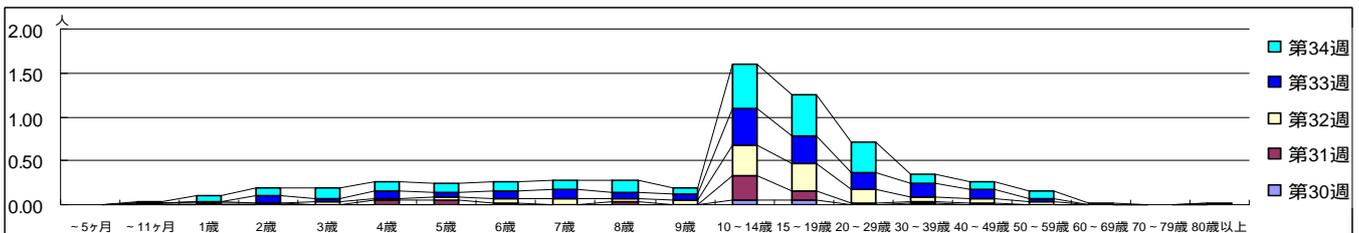
平成 21 年 週 - 月日対照表

第 30 週	7 月 20 日 ~ 7 月 26 日
第 31 週	7 月 27 日 ~ 8 月 2 日
第 32 週	8 月 3 日 ~ 9 日
第 33 週	8 月 10 日 ~ 16 日
第 34 週	8 月 17 日 ~ 23 日

【新型インフルエンザサーベイランス】

クラスター報告: 新型インフルエンザのクラスター報告は、7 月 24 日から 8 月 23 日の間に 28 件あり、確定患者・疑似症が今のところ 101 人です。集団の属性としては、保育園 5、小学生対象学童等施設 1、中高校 16、大学 4、医療機関 1、その他 1 となっています。学校での集団は、部活動や合宿がある中高校・大学を中心に見られており、今後夏休みが終わって学校が始まると、小学校も含めた感染の急速な拡大の恐れがあります。

参考 年齢層別 5 週分集計



【全数把握の対象】

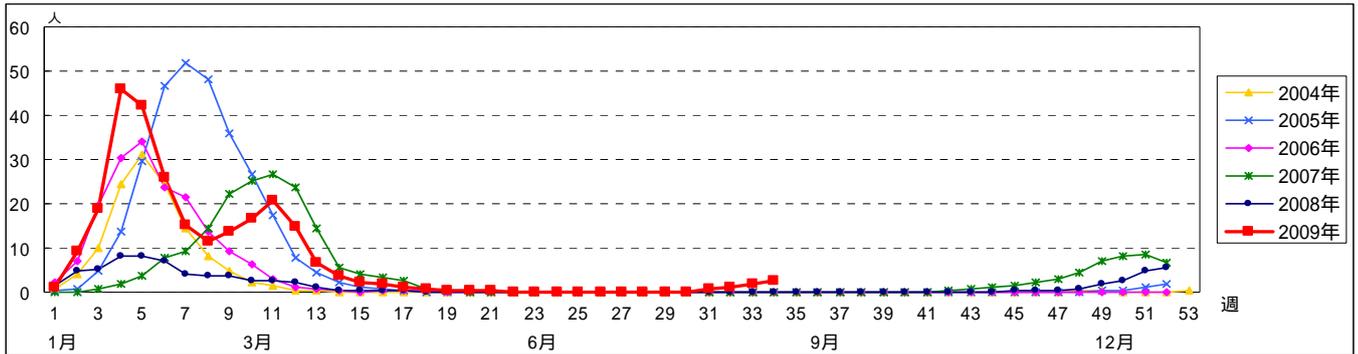
- 腸管出血性大腸菌感染症:** 8 月の報告数は、26 日現在で 8 件(うち 1 件は診断は 7 月)と、前月より減少していますが、例年夏に多いので、これからの季節もまだ注意が必要です。生肉(生レバー等)や生焼けの肉の喫食は避けましょう。
- 麻疹:** 8 月の報告数は、26 日現在で 2 件でした。1 歳児と 2 歳児が罹患し、予防接種歴は 2 件とも MR を 1 回接種済みです。今後も、接種対象年齢における迅速な予防接種が勧められます。
- ウイルス性肝炎(B 型):** 三世家族内に感染が認められました。日常生活の範囲内の接触しか認められていません。3 人とも同じ genotype を示し、比較的今まで日本に少なかった Ae でした。今後 genotype による臨床像の違いに注意が必要です。尚、急性肝炎は、A 型と E 型は、感染症予防法の 4 類として直ちに届出が、E 型、A 型を除くウイルス性の急性肝炎は、5 類感染症として、7 日以内に全数の届出を義務付けられています。  
 参考 わが国における急性 B 型肝炎の現状 IASR <http://idsc.nih.go.jp/iasr/27/319/dj3191.html>
- その他** 細菌性赤痢が 1 件(推定感染地インド)、デング熱が 1 件(推定感染地ラオス)、A 型肝炎が 1 件(推定感染地韓国)、ライム病が 1 件(推定感染地は北海道)。夏季の旅行者は感染症に注意が必要と思われます。

## 【定点把握の対象】

- 1 **インフルエンザ**: 流行期に入りました。横浜市では、第 32 週に流行の目安となる定点あたりの報告数 1 を超えていましたが、第 33 週で 1.78、第 34 週では 2.58 と更に上昇しています。第 32 週から第 34 週までの 3 週間の迅速キットの合計では、412 件が A 型陽性、5 件が B 型陽性、2 件が A 型 B 型ともに陽性でした。病原体定点からのウイルス検出は、9 検体全て swAH1 でした。

今まで行った swAH1 の遺伝子解析では、すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異を認めましたが、オセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異は認めていません。第 34 週の行政区別情報は、栄区で 5.50、西区で 4.20、神奈川区 3.86、港南区 3.83 です。流行の目安の 1 に達していなかったのは港北区 1 区のみでした。神奈川県(横浜川崎を除く県域、以下県域)では 3.16、川崎市は 2.67 全国では 2.47 でした。

また、7 月 24 日から 8 月 23 日の集団(クラスター)報告については、前頁新型インフルエンザサーベイランス報告をご覧ください。



- 2 **咽頭結膜熱**: 流行は見られません。第 28 週をピークに減少していて、第 34 週では 0.08 と、過去 5 年間で最も低い数値となっています。神奈川県県域では 0.08、川崎市は 0.10、全国は 0.19 でした。
- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 流行は見られません。低い数値で推移しています。第 24 週のピーク以降減少し、第 34 週では 0.27 でした。神奈川県県域では 0.41、川崎市は 0.20、全国は 0.52 でした。

- 4 **手足口病**: 流行は見られません。第 31 週の 3.00 を頂点として減少し、第 34 週では 1.40 となっています。神奈川県県域では 1.19、川崎市は 1.67、全国は 1.29 でした。夏の時期の市内病原体定点からの検出は、全てエンテロウイルス 71 でした。エンテロウイルス 71 は、他のウイルスより中枢神経系合併症等重症例が多いので注意が必要です。

参照 国立感染症情報センター 手足口病 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/25/295/tpc295-j.html>

- 5 **ヘルパンギーナ**: 流行は見られません。第 32 週の 3.45 をピークに減少し、第 34 週では、1.10 でした。行政区別では、瀬谷区が 4.33、青葉区、緑区、港南区が 2.00 です。神奈川県県域では 1.30、川崎市は 1.93、全国は 1.58 でした。

- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

7 月は、6 月に比べて横ばい傾向です。例年の傾向と同じです。性器クラミジア感染症が 32 件(男性 12、女性 20)、性器ヘルペス感染症は 19 件(男性 7、女性 12)、尖形コンジローマは 4 件(男性 3、女性 1)、淋菌感染症は 9 件(男性 7、女性 2)でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>